

オークス

前走 2000m 以上から参戦してくる欧州長距離血統。
JRA のステイヤー血統が走りやすいレース

昨年、一昨年のオークスは前走芝 2000m 以上経験馬が複数馬券圏内に。

いずれも人気以上の好走。昨年 3 着のハギノピリナは 16 人気。
一昨年 2 着のウインマリリンは 7 人気。
3 着のウインマイティは 13 人気と超人氣薄。

いずれの馬も RA の芝 2500m 以上レース、
あるいは欧州の長距離で実績を残す血が強調された馬。

本命はルージュエヴァイユ。

母父がフランケル。
欧州 G1 を席卷している超一流種牡馬でオークスでも
産駒のソウルスターリングが優勝。

祖母デインドリームは凱旋門賞を 5 馬身差のレコードで圧勝。
翌年にはキングジョージも優勝。牝馬で両レースを制覇したのは初。

母母父はロミタス。ドイツの長距離 G1 バーデン大賞を優勝。
欧州指向のスタミナが問われれば、メンバーの中でもずば抜けた名牝。

鞍上戸崎騎手の際は、欧州馬独特の気持ちの強さを
折り合い不安と勘違いもされて、必要以上の待機策。

気持ちが強い爆発力のある差し馬をスムーズに乗る手腕は
池添騎手の方が長けています。
前走は休み明けで状態一息のため馬体減で力を出しきれず。
まだまだ上昇余地を残します。

スターズオンアースは父が天皇賞春勝ち馬も出したドゥラメンテ。

祖母スタセリタはフランスの 2400m で G1 勝ち。
その父モンズンは G1 は 2400m しか行われないドイツの名種牡馬。
近親ソウルスターリングも当レース勝ち馬。

桜花賞はベスト条件ではありませんでしたが、
絶好枠で内が空いたこと。中盤が緩んだことが見事にハマりました。
前走と同じコンディションであれば、前走以上に走れる舞台。

ホウオウバニラも父ドゥラメンテ。

姉はオークス 3 着のビツシュ。

母父のアカテナンゴはドイツダービー馬。
産駒のランドもドイツダービー馬でジャパンカップも優勝。
母父としてはワールドプレミアが天皇賞春を優勝。

欧州指向の強い血統。父も母父も産駒が阪神の天皇賞春で実績を残した馬。

今年のフローラ S は前残りのスピード決着。
オークス向きのスタミナ馬は能力は削がれましたが、
余力を残して理想的な形でオークスに臨めます。

なお、昨今のオークスは、前哨戦までのスピード化と
早熟化のおかげで欧州スタミナ血統が出走しにくい舞台。
しかし、出走さえ叶えば、俄然有利。

父、母父、母母父が欧州の芝 2400m 以上 G1 を勝っているのは
4、5、7、8、16、18

願わくは、今年も欧州のスタミナと馬力が問われ、
本命が走った上で、相手も該当血統を連れてきてほしいものです。